

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

E-mail : c17783@pref.gifu.lg.jp

162,782 千円 (前年度予算額: 216,121 千円)

羽島特別支援学校（1台）、岐阜本巣特別支援学校（1台）

(3) 県負担・補助率の考え方

県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保及び適正就学を目的とした整備のため、県負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|----------|---------|--|
| 備品購入費 | 162,060 | 大型バス (@27,810×1台) 車椅子席3席、中型バス (@26,450×4台) 車椅子席2席、マイクロバス (@14,225×2台) 車椅子席2席 |
| 役務費 | 326 | リサイクル料金 大型バス (@53×1台)、中型バス (@53×4台)、マイクロバス (@27×2台) 自動車検査・登録手数料 (@7×7台) |
| 役務費(保険料) | 84 | 自賠責保険料 (@12×7台) |
| 公課費 | 312 | 自動車重量税 (大型バス@62×1台、中型バス@50×4台、マイクロバス@25×2台) |
| 合計 | 162,782 | |

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次教育振興基本計画(2024.3)

(8 各政策の取組内容 政策Ⅰ多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備)

③特別支援学校児童生徒の通学支援

県立特別支援学校の児童生徒の通学に係る負担を軽減するため、乗車を希望する児童生徒の推移に合わせて、スクールバスを増配備

・子どもかがやきプラン(平成21年3月改訂)

(スクールバス整備 基本方針)

スクールバスの乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車できるよう整備する。全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内にする。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4次教育振興基本計画」の基本方針に基づき、スクールバスの乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車でき、全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内にできるようスクールバスを整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R) | 達成率 |
|----------------------------|--------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------|------|
| ① 乗車時間（片道）概ね60分以内の児童生徒数の割合 | | 1,341 1,341 100% | 1,497 1,497 100% | 1,654 1,654 100% | 100% | 100% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|--|
| 令和4年度 | <p>○整備車両（更新5台）・整備校（3校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型バス 2台：大垣特別支援学校（更新） 岐阜本巣特別支援学校（更新） ・中型バス 2台：大垣特別支援学校（更新） 岐阜本巣特別支援学校（更新） ・マイクロバス 1台：海津特別支援学校（更新） |
| | 指標① 目標：1,253 実績：1,253 達成率：100 % |
| 令和5年度 | <p>○整備車両（更新6台・新規3台）・整備校（6校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型バス 3台：大垣特別支援学校（新規） 関・中濃特別支援学校（更新） 可茂特別支援学校（新規） ・中型バス 2台：揖斐特別支援学校（更新） 大垣特別支援学校（新規） ・マイクロバス 1台：郡上特別支援学校（更新） ・ワゴン 3台：郡上特別支援学校（更新） 関・中濃特別支援学校（更新） 下呂特別支援学校（更新） |
| | 指標① 目標：1,358 実績：1,358 達成率：100 % |
| 令和6年度 | <p>○整備車両（更新3台、新規4台）・整備校（6校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型バス 2台：岐阜本巣特別支援学校（更新） 羽島特別支援学校（新規） ・中型バス 2台：関・中濃特別支援学校（更新） 東濃特別支援学校（更新） ・マイクロバス 2台：可茂特別支援学校（新規） 郡上特別支援学校（新規） ・ワゴン 1台：郡上特別支援学校（新規） |
| | 指標① 目標：1,341 実績：1,341 達成率：100 % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|---|
| ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない | |
| (評価) 2 | 県立特別支援学校に通学する児童生徒数は近年横ばいであるが、スクールバス乗車希望者数が増加しており、今後も安全な通学と適正な就学を推進するためにも、事業の必要性は高い。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | 乗車を希望する児童生徒数は毎年増加している。スクールバスを整備することによって、そのニーズに応えることができた。 老朽化したバスを更新することによって、児童生徒の安全な通学手段の確保ができた。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 1 | 各特別支援学校に通学する児童生徒数の推移に対応し、各校が必要とする台数を的確に把握して整備を進めた。 |

(今後の課題)

| |
|---|
| ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県立特別支援学校に通学する児童生徒数は増加しており、それに伴いスクールバス乗車希望者数も増加している。今後も児童生徒数の推移に対応しながら効果的なスクールバスの整備を実施する。 バスの故障が増え、修繕費が年々増加している。車両の管理体制を見直し、学校からの情報を生かして更新計画を立てていく。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 今後も県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全確保と適正な就学を推進するために、スクールバスを整備する。 |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | 【〇〇課】 |
| 組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など | |